消　火　栓　操　法　要　領

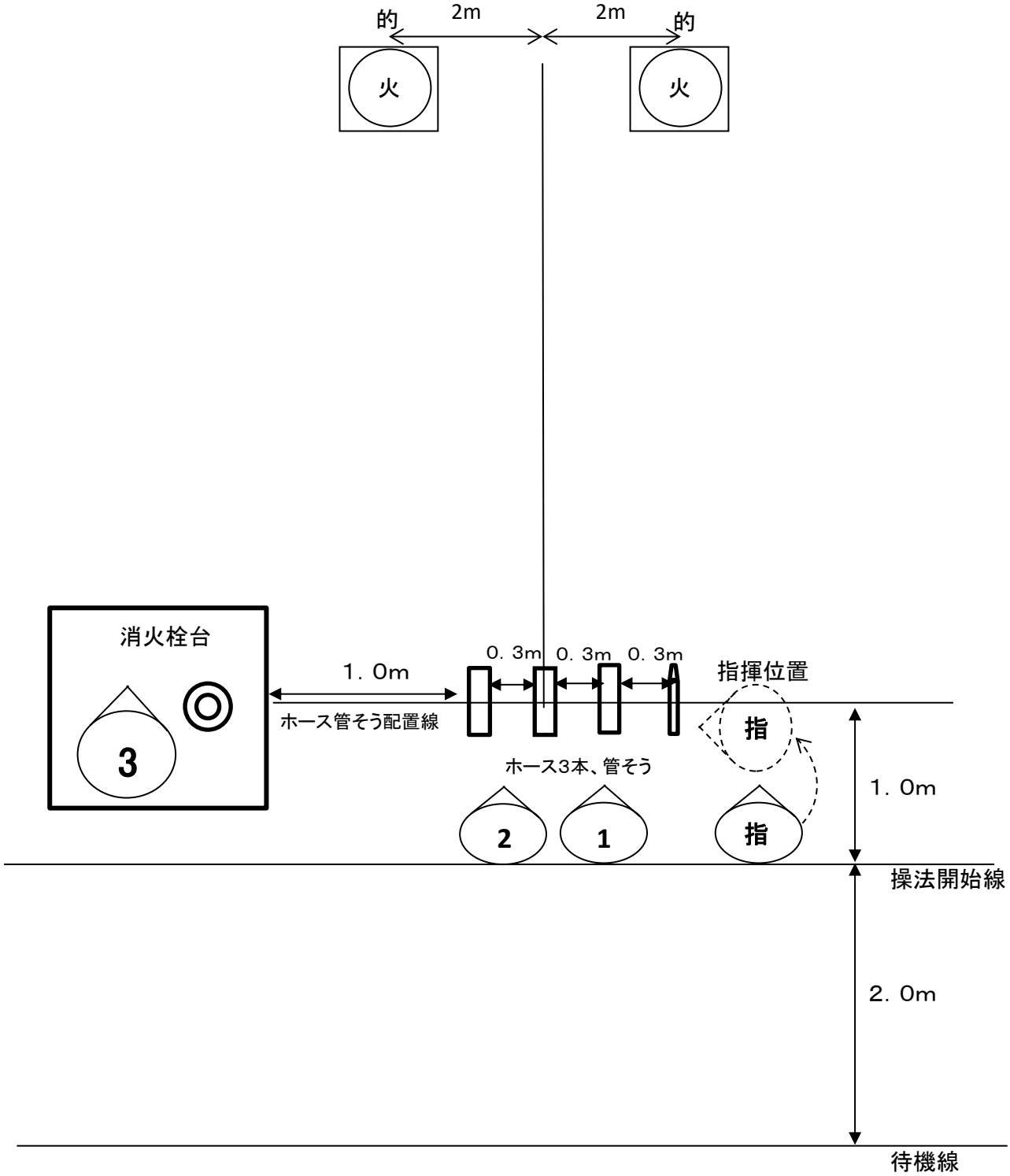
（４人・ホース３本）

項　目	実　施　要　領
１　準　備 （別図１参照） 指→　指揮者 1→　１番員 2→　２番員 3→　３番員	出場チームは、待機線上で係員の指示を受けて消火栓、ホース、管そう等を点検したのち、ホース管そう配置線にホース３本、管そう１本を配置し、各操法開始場所で姿勢を正して待機する。 （選手紹介のアナウンス等）
２　想定指示	係員の合図（操法開始）で、指は、一歩前に出て左向きに姿勢を正し、「想定、火点は前方の的、水利は地上式の消火栓、操作始め」と号令する。（右手で指差する）
３　操法要領 （別図２参照）	（１）指揮者 「操作始め」と号令した後、3の「よし」の呼唱で管そうを手で持つか脇にかかえ、第１、第２ホースの延長距離を考慮して火点に向かって前進し、各隊員の操作を監視する。1が第３ホースをひろめたのを確認し、管そうを1に渡し火点に向かって前進、注水線手前で注水位置の指示をする。 （２）１番員 3の「よし」の呼唱で、第３ホースを肩にかつぐか脇にかかえ、指の後方につき火点に向かって前進、第１、第２ホースの延長距離を考慮してホースをおろし、足先でホースを押さえてひろめ、オス金具をその場に置き、指から管そうを受け取りオス金具付近を足先で押さえ、両手で結合、確認して「よし」と呼唱する。 次いで2の結合確認の「よし」の呼唱で、「放水始め」と呼唱、2の「放水始め」の復唱を確認し、注水線まで前進、余裕ホースをとったのち、注水姿勢をとる。 （３）２番員 3の「よし」の呼唱で、1が前進したのを確認したのち、第１ホースをひろめ、その場にオス金具を置き、メス金具を両手で3に渡す。その後、第２ホースを肩にかつぐか脇にかかえ、第１ホースのオス金具を持ち、火点に向かって前進し、第１ホースを延長する。 第１ホース延長後、第１ホースのオス金具と第２ホースを置き、第２ホースをひろめ、両手で第１ホースと第２ホースを結合、確認して「よし」と呼唱、第２ホースのオス金具を持ち、火点に向かって前進、第２ホースを延長する。 第２ホース延長後、1の延長した第３ホースに両手で結合、確認し「よし」と呼唱して火点の方向に向きを変えて起立する。

	次いで、1の「放水始め」を復唱し、その場で3の方向を向き、右手を真上に上げて「放水始め」を伝達、3の合図を確認した後、火点に向かって走り1の反対側後方の位置で「伝達終わり」と呼唱し、ホースを両手で持って、注水補助を行う。 （４）３番員 指の「操作始め」の号令で「よし」と呼唱し、2から第１ホースのメス金具を両手で受け取り、消火栓放口に両手で結合、確認して「よし」と呼唱し、消火栓台の上から余裕ホースをとる。 次いで、2が「放水始め」と伝達呼唱するのを受け、右手を真上に上げて「放水始め」と復唱後、両手で消火栓バルブを開放し送水を行う。
４　放水停止	（１）指揮者 的が全て倒れたら直ちに「放水止め」を1に号令する。 次いで、2が「放水止め」を伝達し「伝達終り」と呼唱したならば、1が管そうを係員に渡した後、「わかれ」と呼唱し隊を解散させる。 （２）１番員 1は、指の「放水止め」を復唱し、2が「放水止め」を伝達して元の位置に戻り「伝達終り」と呼唱後、「よし」と呼唱し、管そうを係員に渡し姿勢を正して、指揮者の指示で解散する。 （３）２番員 2は、1の「放水止め」で「よし」と呼唱し、第３結合部まで戻り、3に「放水止め」と右手を横水平に上げて伝達、3の合図を確認した後、元の位置に戻って、姿勢を正し「伝達終り」と呼唱して、指揮者の指示で解散する。 （４）３番員 2の「放水止め」の伝達を右手を横水平に上げて「放水止め」と復唱し、消火栓バルブを閉じ姿勢を正して、指揮者の指示で解散する。

別図1（共通）

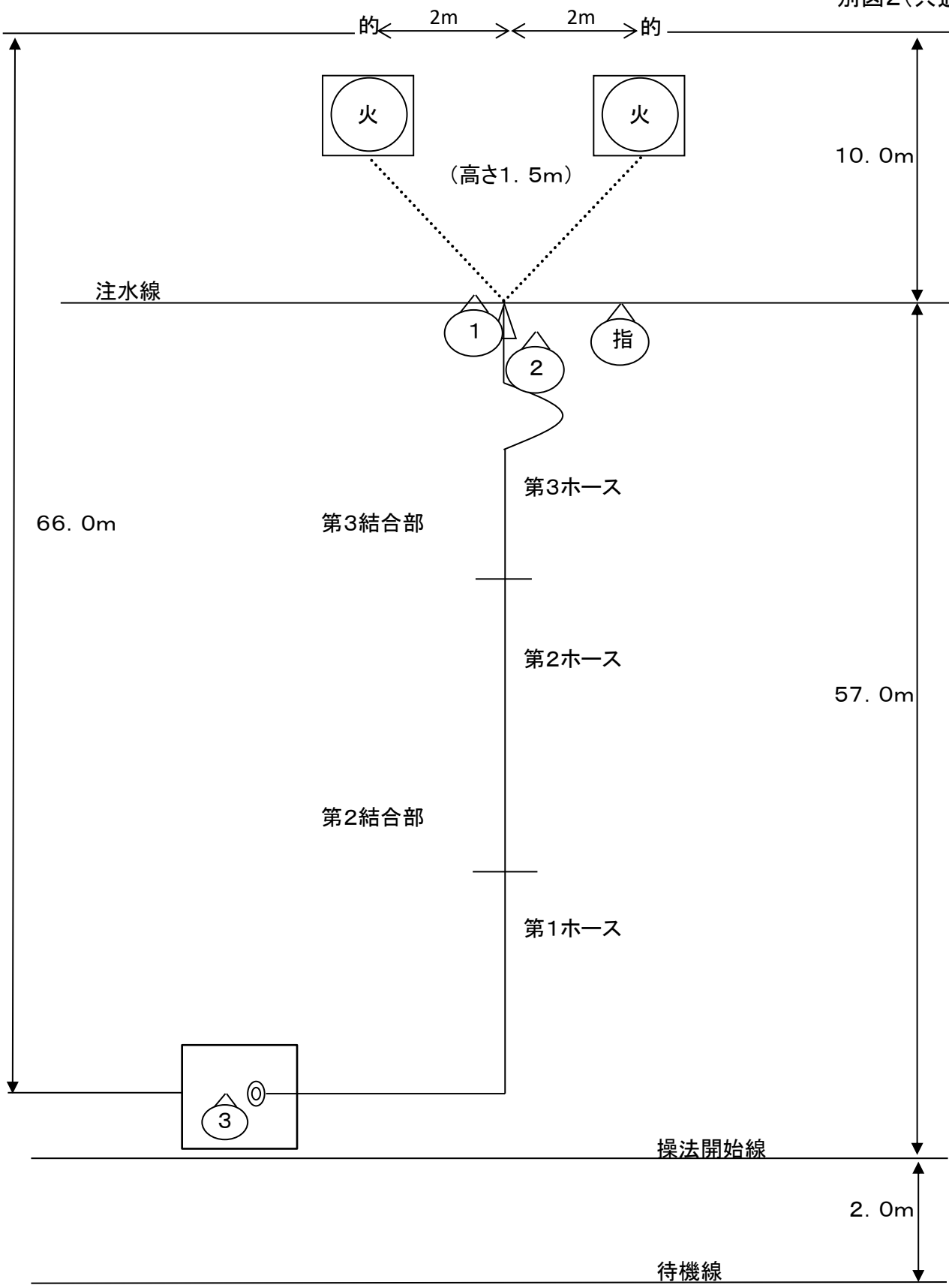
操法開始時



※ホースはメス金具を、管そうは先端を的側に向けて配置する。
※ホース及び管そうの配置する間隔は、それぞれ30cmとし、配置場所を明示する。

放 水 体 系 図

別図2（共通


的
2m
2m
的
火
火
10．0m
（高さ1．5m）
注水線
1
2
指
第3ホース
66．0m
第3結合部
第2ホース
57．0m
第2結合部
第1ホース
3
操法開始線
2．0m
待機線

消火栓操法実施基本事項

１　使用消火栓、的の位置（別図参照）

（１）美浜消防署消防訓練場（大会会場）内に地上式消火栓を仮設し、消火栓を介して送水する。

（２）的は注水線から１０．０m離れた地上高１．５mの的とする。

（３）消火栓操法（地域）及び（職域）の的は２箇所とする。

２　使用器具の位置等

（１）長さ２０m以上の６５㎜ホースを使用する。

※　小学生以下のチームの場合は、４０㎜ホースを使用する。

（２）ホースは、二重巻とし各隊でホース管そう配置線上に配置する。

※　ホースは、メス金具を的側に向け、地面に接地すること。

※　管そうは、先端を的側に向けて配置すること。

（３）消火栓キーは、消火栓につけておき方向は自由とする。

※　小学生以下のチームの場合は、職員が補助する。

（４）管そうは、美浜消防署で準備したものを使用する。

３　ノズル口径・筒先圧力

ノズル口径２０㎜、筒先圧０．４Ｍｐａとする。

※　小学生以下のチーム及び女性が１番員の場合は、職員が補助する。

※　ノズルは美浜消防署で準備します。

４　その他

出場チームのプラカードは、操法開始前に所定の位置に立てること。

操法実施上の統一事項

1　ホースの搬送要領

　ホースの搬送は、左肩にかつぐか、左脇にかかえるものとし、メス金具付近を左手又は左脇で保持して搬送する。

2　ホースのひろめ方

　ホースのひろめ方は、金具を手前にして地面に立て、右足先でメス金具付近のホースを押さえ、右手でオス金具を確実に保持し、左手はホースに添え、左足を一歩前へ踏み出すと同時に右手（両手でも可）で前方へ転がしてひろめる。

3　ホースの結合要領

　ホースの結合は、オス金具付近を右足先で押さえ、金具をやや上に向けて、これにメス金具を両手で持って結合したのち、手前に引いて確認動作をする。

4　管そうの搬送要領

　管そうの搬送は、右手で筒先中央部を握り持つか又は右脇にかかえて搬送する。

5　管そうの結合要領

　管そうの結合は、ホースのオス金具付近を左足先で押さえて、金具をやや上に向け、管そうを両手で持って結合したのち、手前に引いて確認動作をする。

6　２箇所の的は、どちらから倒しても良いものとする。

7　操法内の「わかれ」の後、速やかに退場する。（隊として退場する動作を省略）

　ホースの撤収は、消防職員及び消防団員にて行います。

※　上記共通事項は、右利き用の操作方法であり、都合の悪い場合は、逆操作を可能とする。

操　法　審　査　要　領

審査は、計時審査・行動審査・総合審査を実施する。

1　審査範囲

進行の「操法開始」の号令から各隊の「わかれ」までとする。

2　計時審査

（１）計測員は２名で計測（少数点第３位以下切り捨て）し、その平均の計時を所要時間とする。

（２）１チームの基本点を１００点とし、番手問わず女性及び小学生の参加者１人につき１点を基本点に加算したものを計時持点とする。

（３）指揮者の操作始めの号令後、３番員の呼称「よし」の「し」から的が全て倒れるまでの所要時間（１秒＝１点）を計時持点から差し引いた残点を計時得点とする。

3　行動審査

１チームの行動持点を６０点とし、減点項目により減点し、その残点を行動得点とする。

4　総合審査

動作全般（安全確実性・敏しょう性・規律節度・士気）について総合的に審査する。

5　順位の決定

（１）（計時持点１００点～１０４点－所要時間）＋（行動持点６０点－行動減点）＋（総合審査点数）＝合計点数の多いチーム

（２）同点の場合は、行動減点の少ないチームが優位とする。

6　協定事項

（１）減点の対象となるもの

ア　操法要領に示す操作を怠った場合

イ　操法要領に示す以外の操作を行った場合

（２）操法のやり直し

ア　操法のやり直しは原則として行わない。ただし主催者側に責任があり操法が続行できない場合はやり直しとする。

イ　その他、審査長が必要と認めた場合

（３）異議の申し立て

審査の結果等については、一切異議の申し立てをすることができない。